

**格差をなくし、平和を守る！  
笑顔あふれる未来をつくろう すべての働く者の連帯で！  
第90回メーデー大分県中央大会**

第90回大分県メーデー中央大会です。

統一地方選挙が一定の成果をあげて、終了しました。関係者の皆さんには大変お疲れさまでした。



▲ 第90回メーデー大分県中央大会 実行委員長挨拶

さて、私たち連合が2010年にめざす社会像として確認した「働くことを軸とする安心社会」では、「『働くこと』に最も重要な価値を置く」としました。「働くこと」を広い意味で言い換えれば、「仕事」ということになります。

仕事は、私たち一人ひとりの生活の基盤です。仕事は、物質的なニーズを満たし、貧困を回避し、ディーセント・ライフ（人間らしい生活）を築く手段でもあります。

そして、時には、物質的なニーズだけではなく、アイデンティティや組織への帰属意識、目的意識を与えてくれ、私たちに明るい未来像を垣間見せてくれたりもします。

また、仕事は、人と人とのつながりや交流によって、ネットワークを形成し、働く者の社会的な結束・団結を促し、社会における共同体としての重要性も持ち合わせています。

さらには、仕事と労働市場を適切に公正に整備することによって、社会的平等を実現させる、非常に重要なものともなります。



▲ 第90回メーデー大分県中央大会 会場風景

しかし一方で、仕事は、ある時は危険をはらみ、ある時は健康を害することにつながり、また、低賃金での雇用におかれたり、将来の見通しが立たなくなったりという、不安定な側面も持ち合わせています。

仕事の内容によっては、その仕事に可能性の広がりを感じることができず、逆にストレスの蓄積が上回り、精神的に逃げ場を失わせる非常に危険なものになることもあります。

今、急速に進む人口減少と超少子高齢化の大波の中で、様々な情報をデータ化・ネットワーク化するI o T、大量のデータを分析して新たな価値を創出するビッグデータ、大量の情報から自律的に最適化を行う人工知能（A I）など、第4次産業革命という「新たな原動力」が、「仕事の世界」を変えつつあります。

この人工知能、自動化、ロボティクスなどのテクノロジーの進歩は、新たな仕事を創り出す一方で、消滅する仕事を創り出してしまうかもしれません。また、今日のスキルは明日の仕事に通用しなくなり、新たに習得したスキルも瞬く間に時代遅れになる、そんな労働環境を創り出すかもしれません。

しかし、私たちは、このような時代が差し迫ろうとも、労働組合として「仕事の未来」のために、このことを敢えて好機ととらえ、「人間中心・人間主導」の考えをど真ん中に据える「断固たる決意」を固め、「断固たる行動」を行い、社会と未来を変えるものにしたいと思います。

日本人でただ一人国際パラリンピック委員会の殿堂入りをした「河合純一」さんという全盲の方がいらっしゃいます。日本身体障がい者水泳連盟の会長もしていますが、この方がある対談で「東京パラリンピックの成功は、その後の社会をどう変えるか?」ということに関して、次のように発言をしています。

超高齢社会を迎え、誰もが年齢とともに何らかの不自由さ・不便さを感じるが増えるでしょう。だから、パラリンピックへの取り組みを通して、バリアフリーやユニバーサルデザインの街づくりを進めることは、障がい者のためだけでなく、すべての人に必要な先行投資になります。

それは、技術革新を生むヒントやきっかけにもなります。こんな発想の転換が、社会と未来を変える力になるのではないのでしょうか。

しっかり、受け止めて運動に生かしていきたいと思います。



▲ 会場受付風景



▲ 出展風景 ポップコーン無料配布

国連では 2030 年までの世界共通の達成目標である S D G s「持続可能な開発目標」が採択されました。17 の目標に対して、169 のターゲット、230 の指標が示され、集計・分析が行われています。

ILOは2017年に「仕事の未来世界委員会」を発足させ、100周年を迎える今年2019年から新たな100年に向けて7つの課題を挙げ、すべての人が、人間らしく働ける世界の確立に向けて、取り組みをはじめました。

そして、連合は今年結成30年の節目を迎えます。これを機に、「私たちが果たすべき社会的責任や求められているものは何か」を今一度見つめ直し、年齢や性別、障がいの有無、国籍などにかかわらず多様性を受け入れ、互いに認め支え合い、「誰一人取り残されない」社会の実現をめざし、その一翼を担っていきたいと思います。

ともにがんばりましょう！

